

岩祿層

明次十年
前級

一橋大子共派会演説行

二

特別
14
1919
743



特
 留
 1919
 142
 743



学上連絡論

田中鍾彦の橋

環宇、同物各連絡アリ而後其用ヲ為ス今夫一塊
 一錢輪一絲、車輪之ヲ整列シテ其用ニ適セシメハ
 以テ人類、偏要ニ供ス可シ以テ一國ノ富ヲ興ス可シ然レ
 共ニ其連絡ヲ絶テ車ヲ一方ニ置キ軸ヲ他方
 ニ去テシメハ百鍊為機アリト云モ過用ニ長物ヲ
 ハニ過キサハ可シ且目四技ノ人ニ於テモ亦然リ且目視
 ヲ司ラ而シ且ハ聞クヲ目ル鼻口四肢五臟六腑
 皆各其任アリ故ニ目ハ明ナラハ耳ハ聴ケル
 ヲ廢ク久快レ共ニ以テ諸官、同ニ神經脈絡ヲ助養
 等、連絡物アリ以テ其切用ヲ相通ス相補理
 スルニ作ルニハ一日モ止ラズテ一輪ハカルナリ

御現存我日本國、勢カハ之、如何、凡有條、少可、喜、
時、カ、ハ、ク、止、ム、可、キ、時、カ、ハ、ク、解、可、キ、時、カ、ハ、ク、
我輩ハ寧、ク、也、憂、ク、懷、ク、笑、ク、臨、天、下、得、ク、モ
國、カ、ハ、世、ノ、國、カ、ハ、度、外、視、ス、之、誰、ク、解、セ、受、ル、ヲ、不
肯、ナリ、是、ヲ、以、テ、散、テ、明、セ、之、悲、高、ス、ハ、罪、ヲ、
忘、レ、時、歎、ナ、一、班、ヲ、述、ヘ、ト、ス、ハ、ナリ、

所謂其一班ハ何ヤ曰ク學士社在日と連路ナリ
夫ト是ナリノ一類ニ在テ學士社層ノ情況ヲ窺
フニ文學法學者流カ理學者者流ヲ指テ曰ク吁
被蒙ハ今日、時ヲカ何ナレ目ヲ以テ見レヤ國憲
未整、ク、ハ、民、權、振、リ、ハ、國、幣、恃、レ、疾、疾、ノ、趣、カ、シ
ト、ニ、而、回、權、ハ、外、國、ト、對、峙、ス、能、ク、下、動、モ、レ、ハ

内乱立ニ起ルニ危嶮、時勢ニ所レテ或ハ兩脚規
ハ定規板ヲ握リ圓形三角、理ヲ考、究、テ、力
カ無、ク、後、ヲ、併、ス、或ハ望、遠、鏡、ヲ、以、テ、天、体、運、動
ヲ、窺、ヒ、或ハ現、微、鏡、ヲ、以、テ、昆、虫、ノ、足、ヲ、數、テ、以、國
盛衰ヲ見ル、ク、儼、然、ノ、麻、布、扇、ヲ、見、ル、
カ、如、ク、只、空、理、ヲ、説、ク、テ、以、テ、以、中、興、重、旦、ヲ、促、ス、
支、障、ヲ、徒、費、ス、莫、ク、以、國、ニ、對、シ、テ、其、勢、ヲ、不、知
シ、テ、ナ、ク、ス、將、國、賊、ヲ、無、用、ニ、費、ヤ、ス、
亦、一、方、ニ、向、目、ヲ、傾、ケ、テ、理、學、者、流、カ、説、ク、
聞、ク、ハ、曰、ク、今、ヤ、我、國、難、一、大、原、因、ハ、
力、不、定、
アリ、ナリ、
製、不、造、國、產、
是、皆、理、學、ノ、
力、不、定、

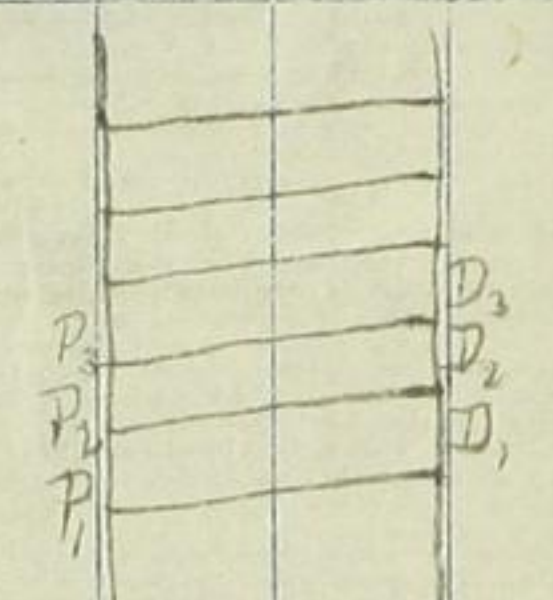
ハナニカカラサハニホリハハ國勢ナシ、後ノ長帽ハ
形此後キコシラ天下ニ權行ス、流路ヲ水ノリ以テ
細山嶺ヲ作り或ハ人争ヲ遂ケレシメテ以テ其自
ヲ利ス何リ以國ヲ利ス不、我故徒ノ大々悲心ハ山
互ニ他、失の岸ヤキカサレテテテ相不カセ
越人ノ采人ニ於ルノコナラカレテ、而テ法文
政字者内ニテカ右ノ右ノ部為ニ標テ一陳
ヲ張リ彈子ニシ、内ニ不實地理論卷其地ナリ
右ノ以テ相駁擊テ又現像ハ惟ニ學士社者目ニ
見、ニナラズ移居スル共ニカ、學本ニ或ハ其
鳴呼以輩取孔何
リマカナルヤ其ニ各自ノ勢カレテナリ以テ國以

一富強ヲ保リ以國ヲ維持スルヲ不思、聊自己
ノ職トスルニホリ以テ以金國ニ不足ナル同胞、
兄弟ヲ敵視スルハリ、勢カム余以造テ見テ其
言ヲ聞キ未タ嘗テテ謂ニ忘突シテ之ニ次
ニ此心嘆ク以テセカハアテサレナリ
史國ノ田タル不以ノエノハ、故ニ此レナリ
又理學家ノコナリルヲ以テ、故ニ此レナリ、其法又上
ノミアリ、以テ好ニ此レナリ、何レヲカ取リ何レヲカ
去ラシ各自其本部ノ業ヲ務メテ互ニ相神
理シテ以國ヲ維持スルハ、猶耳目鼻口四肢
ノ諸官カ神經ノ助骨、連結ニ由テ一身ノ
康安ヲ得ルカ如ク、此レニ年若シ目ハ耳ヲ當

非月
 リ高ハ口ヲ形況ヲ見ハ三寸ノ猫爪
 毛猶斤股傷カレ可シ然ハ三五尺ノ活人カ自ラ
 以廣戯ヲヤミテ愧ハ色ヤキハ何ツヤ
 今字士人オノ事力ニ持相共ハ之務ヲ以國ヲ
 富強ナラシムルニ向不足ヲ覓テ豈五二年ヲ
 二時タラシヤ今ニシテ之ヲ連絡ヲ得セシヤ
 又ニハ必クハ國家盛衰ニ相也惜哉余カ以
 テ之ヲ救フニ是ラズ仰々孰リハ諸君ト共ハ
 勉勵シテ字士ニ社會ヲ連絡ヲ作り以テ
 以國ヲ強持スルノ法ヲ助テシテ知テス
 諸君以テ如何トオヌヤ余ハ~~○~~担荷
 無有トシテ甚ニ笑ワシトテ~~○~~云々

都生ハ既ニ前層ニ於テ風雨針ノ何物カト其發明ニ至ル畧
 歴及ヒ其制存造用法ヲ諸君ニ授スルハ今茲ニ證セス
 今夕ハ之ヲ以テ地平ノ高低ヲ量ルノ法ヲ畧説セシ故
 風雨針ハ先ニ述ベタル如ク大氣ニ壓カヨ量ルノ法ナリ故
 ニ壓カト距離ノ増減ハ何如ナル定則ニ從フヲ確定セ
 サル可カラズ
 今吾侪カ居住スル地球ヲ包メ壓スルノ大氣ハ幾許
 里ノ高度ニ達スルカ吾侪未ク之ヲ確知スル能ハス然
 レ共ニシテ一個ノ氣増ヲ想像ス之ヲ九ノ四ニテス如
 シ幾タタノ細層ニ分ツ其一細層中ノ氣同等ノ壓
 カヲ有スハモトセンテ P_1, P_2, P_3, \dots 以テ其層
 毎ノ壓カヲ示ス又 D_1, D_2, D_3, \dots 以テ其密度ヲ示

又此ハ片ハ P_1 ヲ引キ去ルハ残リハ P_2 層 (即チ
 最下層) 重ナリ P_2 ヲ引キ去ルハ残リハ第三層
 重ナリ此ハニテ第一層ニ各層皆其塊ヲ同クスル
 以テ其重量ハ其密度ト正比例ナ
 ス即チ $D_1 D_2$



(1) $\frac{P_1 - P_2}{P_2 - P_3}$

此ハボコ長ノ定則ニ依
 リ壓力ト密度ハ亦正
 比例ナラス即チ

(2) $\frac{D_1}{D_2} = \frac{P_2}{P_2}$

故ニ(1)(2)ヨリ

$\frac{P_2}{P_2} = \frac{P_2}{P_3}$

故ニ如何ニ薄ク細層ヲ成スニ其關係
 ナラズ故ニ其層層ノ薄ニ至ラハ

前ノ一層中ニ壓力カ同一ナリト定メタルニ相違
 ナラズ知ル極端ニ薄ク P_1 P_2 於ニハ P_2 P_3
 於ニカ如シトハ是レ如何ナル率數リ是レ即チ
 厚度連數ナリ然ルニ吾儕ハ其ニ細層ノ厚
 カヲ同一ノ物トナセリ 故ニ距離ト壓力ノ關係ハ尤
 ノ一係ニ之ヲ求ルヲ得可シ

地上ヨリ直立ノ距離昇差連數ニ從テ増加
 ス而テ壓力ハ厚度連數ニ從テ減スト即チ是レ
 代數學上ノ語ヲ以テ記セハ尤ノ如シ

即ハ其ノ前ニ在ヘタル如ク第一兵隊
 二直ニ於テ壓カテリ即ハ兩針ノ高サハ壓カレ正比
 例ナル政ニテP₂ハ兩針ノ高サナリAハ
 定數ニテ大氣ノ鉛一層中ヨリ算定スタル數ナリ
 其數ハ六万尺或ハ六万三百六十四トナスモアリ
 即ハ其ノ前ニ在ヘタル如ク然ルニP₁ P₂ノ差甚
 大ナル所ハ那兵對敵ニ要ヲ在成リ何ユルヤ
 局

$$P_1 + P_2 = 52500 \text{ P}_1 - P_2$$

右 田中館愛橋述

明治十一年三月

橘楠三郎述

凡天下ノ事一利アリハ一害隨テ生ス
 矣觀ヨヤ觀ヨヤ嘉永癸丑以前我國ノ
 形勢ヲ学文ト云ヘハ支那ニ藝ト云ヘ
 ハ支那農業ト云ヘハ支那兵ト云ヒ樂
 ト云ヒ支那ニ非サルハナク且支那ヲ
 学ニテ商ヲ賤シメ東方ノ孤島ニ獨立
 瑣港シ世界万国ノ有ルヲ知ルモ只一
 ノ和蘭ニ通商シ其文物有ルヲ知ラス
 徒ニ外國人ヲ犬馬視シ夷狄ノ腥羶我
 神國ヲ汚サレトヲ懼レタルハ豈固陋

ノ甚シキナラスヤ然ルニ米國軍艦突
然我國浦賀ニ来リ兵力ヲ以政府ニ挾
迫シ和信貿易ノ約ヲ請フニ百年ノ太
平ニ慣習シタル政府兵ハ國ノ凶事猥
ニ動カス可ラスト主張シ二三ノ有司
議シテ勢ノ止ム可ラサル者トナシ權
ニ和信貿易ヲナシ横濱ノ港ヲ開キ夕
リ此ニ至ルヤ我國ノ學士或ハ諸藩ノ
士和信貿易ヲ排斥シ攘夷ノ説ヲ唱ヘ
國ニ殉スル者數十名豈憫然ノ極ナラ
サランヤ遂ニ攘夷ヲ名トシ次ニ維新
ノ改ヲ以テスルモ攘夷ノ行ハレサル

ハ沿革ノ時第一月ニ於テ旧政府ノ定
約ヲ履踐シ今日ノ文明世界トナル僅
十一年奇ト謂フ可シ蓋シ今日文明ノ
人ニ益アルヤ大ナリ偉ナリ各自自由
ヲ得文運昌盛至ル如學校ナキハナク
四民ヲ混一ニシテ公家大名藩本陪臣
農工商穢多ノ別ナク外國人トモ婚ス
ルニ至レリ一身上ニ於テハ帽ヨリ靴
迄一家ニ放テハ煉化石室玻璃窓卓椅
食ニ於テハ三义刀匕牛羊葡萄酒麦酒
衣食住ヨリ日用百般ノ器具玩弄香奩
モ欧米ノ品物ヲ用ユルニ非サレハ野

蛮視之不開化人トシ或ハ視固ト鳴ラ
シ人輩セサルニ至ル豈甚シキ謬リナ
ラスヤ此ニ至リ一丁字ヲ知ラサル者
ハ固ヨリ少ク文字ヲ知ル者或ハ雷同
家ハ利害得失ヲ問ハス只洋品ヲ貴重
シ我國産ヲ擯斥シ我國固有ノ天産固
有ノ義術ヲ捨テ、度外ニ置キ睡中ニ
夢ヲ説キ喃々トシテ更ニ方向ヲ失ヒ
恰モ虚舟ノ大洋ニ漂ヘルカ如クナリ
シハ則チ此文明ノ利アリテ此害ヲ生
シタルナリ之レ我輩ノ杞憂ニ堪ヘサ
ル所口仰キ希クハ三千五百萬ノ兄弟

ヨ我黃啄乳臭ノ言ヲ聞ケ各自其業ト
スル如ク勤メ我國ノ天産義術ヲ精更
精良將良華族ヨ士族ヨ資本ヲ農工商
ニ頒ケ銀行ノ実ヲリテ農工商ノ融通
ヲ務メ且少ニ頡頏シ我國ノ元氣ヲ振
トト起サシマテ企望ス

明治十二年五月廿二日夜

共話會負

中原貞三郎演述

先達而以來理字ヲ修ムルモか連、法文字ハ由孟
サリ色用ナリト演説シタルモノアリトテ法文字ヲ字ハル、
人々ハイタリ所并敷ナシタリコノ并敷ハ貞三郎ニ於テ
ハ誠ニ所尤モチ富ト存ジ又至極而向志息、コレアルナリ
係シテラウ貞三郎モ勇テカ々右、類似シタルコトヲ信シ
リルコトアルヲ以テ或ハ誤解セラレムコトモ第一アラシクテ恐レ
カ故、今晩丁度貞三郎ノ説ノ法文字方ノ而後ト
鳥渡モ延延セズ徑テ非常ノ所叱リテ世カハ程ノコト

うてハ其二日意ナレに申サズ凡明リタルコトニハ右ノ類ノ人ナリ
要ロキメヤリトシテ又シテ申サズ凡明リタルコトニハ右ノ類ノ人ナリ
若シ流行ニ速ト自カニ適シタル技藝ニ棚ニ置キ免ガ申
以テ師ハ法字ガ流行ニハ吾モ法字ナラフコト云フ様ナ
ハ人ナリ右ノ法字三郎ノ趣意ニテナリ凡ハ其ノ人ナリ
貞三郎ハ又シテ法字モ理字モ文字モ有善無悪
物由メカ右ノ用ガナラフコト云フ様ナリ
トシテ早クスル如シ

修身字并々善道教者

此法字ハ生シ格コト人ナラフ面白キ事ナリ好マコト人カ是シヤル
可キヤ面白キ事ノ嫌ビヤル人ハ此モエシヤルコト西洋ニテモ
侍等ガ自カノ生命ト安全トヲ操テ他人ノ身ヲ殺フコトガ

鮮程流行シタル様子ナリ自カガ殺サレ又ハ傷ラフコト
凡他人ノ生命カハ是レ非レ助ケテ居ラスハ他方面白
カラマテ話ノ成コトモ是モ其時ノ心習ナラズ事ナラズ自
人ノ身ヲ殺スル等ノ縁由ナリシテ後今余ト引替テ思ヒ自
分ガ右様ノ事コト自カトナリテハオサキノ面白キコト思ヒ
リ考シタルコトナリ又先法師ガ世間ノ人衆ヲモホリカケ
申五度許リナル様ニ杖ヲキキ入ルコトニテ食ラセトフ何
コト限リモナリ日本國中ラ脚行セラルル如クモ即難儀
ク見ヘテ苦勞ト存スル法師ノ身トナリテハ是レガ自カノ業
ハコトナシコトナリテ罪ヲモホリテ身トナリテハオサキノ
面白キコトナリテ苦勞セラルルコトナリテハ是レガ自カノ
モト明レモ毎コト課業ニ入リテ先カテ詭歩スルコトナリ

ハ苦ニシ極文字ヲ讀ミ理屈ヲ考ヘ折々ニ再試驗ナドモ
ノ立テラウシ第一評莫數ニテ以下ナル中ハ及弗得セヌハ
知シタフ加之倍費生ナシバ月々五圓ノ御杖持テ上テ
ハカト太心配スル等識、申シ様キキ苦ニシテ即互ニ
トトハ考ヘ子トシ差引勘定シタラバ後日可ナリ
ノ理屈ノ在面キニシテ可ナリ、自今ノ暮ルニテ
ハ、人ヲ操ケテハ之カハ在リテ一等ノ面白キ
以標ニ大難儀ヲスル徒ト存カ此類ノ例ヲ尋ク
フモ其期ナシ時限リアリテ例ハ限リキ
コトテ止ムハ凡何ニシ口角コノ世ハ面白キ
モノニシテ飛シ人ニテモ面白キ
生シ落ケタル甲以又キキナリ 扱外面白カラヌ事カ大好

物ナリトモフ以事アルカモ知ラズト、其ハ其人ノ面白カラヌモノトモ
トコト事ナシ且一人ハ何ニシテ面白キ故ナリシ
コト好トモフ又アバ試ニ所頼ニ仕度ナリ、海山モシ
學者先生ニテモ八甲ニテモ梅ナシテモ面白キ
置キ睡テモ起テモ食テモ飲ニテモ見テモ聞ニテモ
テモ面白キナリ、許リスルカ其性ニテ又面白キ
モ坊ケナキナリ、即互ニ云ハテマスシガ成ルテ面白
シ唐キモナリ

然ラト雖モ面白キナリ、廢物ナリニシテ觀定スル
難シ今体面白キナリ、一種ノ苦ナシモ都合ナ
区別シ甲ヲ眼前ノ面白キナリトモ、永遠ニ面白
万シ甲ハ一時ハ面白ク凡俗ハ大難儀トナルモ、

好ニテ為ス仕事ニヤラス是レ即ケテ面白キ事ノ一應具仕物ナリ
オニコト直ノ面白キ事トシテ誰レハモト心ニ以テトモモナリ
例ヘバモ、放盪漫アリノ朝、夕、日、夜、酒色、耽リ
下道リノ身代モ益、ハ能興、遣ヒ兵ニ程ナリ身代限
リナリ親類類ノトナリ盗ナリ徳及揚メナリ
強盜リナシメテ殺シテ、自カモ殺ヒサハ、モナリ其メ
強盗ノ酒、飲、色、耽リシハ、一應ハ面白キ事ナリナリナリ
自代限リハ、随分苦ガキ事ナリ他人ノ物ヲ次々シテ酒ヲ
飲ミクハ面白キ事ニシテ、懲ニ後ハ面白キ事ナリ又テ殺シ賊
ヲ奪ヒ色、耽リクハ面白キ事ナリ外ハ、キ生年ヲトクハ、ハ
随分ワラキ事ナリ是等ハ、一先テ面白キ事トハ申シタシモ
一更ハ面白キ事ナラズ自何故トナラズ面白キ事トナラズ

後ノ苦ガ心中、女在スルナリ、ミバ承知シテ、右様、腹
迄トモ申ス事面白キ事ナリトクハ、モナシモ、外ハ、細談ナリ知カ
腹迄ノ面白キ事ヲ為スモ、ナカク、又カ、書生ノ子向ハ
随分ワラキ仕事ナリト、一應、向、カモ、生、シ、ル、ハ、面白
限リナケシモ、後ノ、一、ハ、ア、カ、故、ハ、苦、如、見、ユ、モ、実、ニ、モ、ナ
スモ、不、当、ナ、ラ、ズ、後、口、ノ、平、モ、其、ノ、面白キ事トナラフ可シ
時計カ待タテ故、モ、テ、モ、例、ナ、者、右、ノ、切、カ、テ、面白キ事ト
ニ様アリテ、之ヲ見分クハ、初、ニ、テ、敷、又、及、今、ヒ、之ヲ見分クハ、モ
自カノ心ノ通リ、スル、ハ、モ、難、キ、事、ナリ、モ、シ、バ、人、世、面白キ事ハ
最要的ノモノナリ故、ハ、最要的ノモノヲ見分クハ、又、人、世、最
要的ノモノトナラフ可リ又、及、今、ヒ、之ヲ見分クハ、トテ、直、ノ、面白キ
事トナラフ可リ、又、及、今、ヒ、直、ノ、面白キ事トナラフ可リ、モ、ナ、ハ、

属る最要的ノモノニテエシコフ人世オ一等ノ要物ト云フ事
真ノ面白キヲ見合ル是見ハ誠ニ要用ナリ然ラバ物
何デアロウカ以テ人カリテオシガ發明シテ次ホ金備シ
現ニ本國革命盛頓者ノ觀望甚望ニテ直徑二尺五寸
其價大九リ三カ弗ニ彼ノ天文鏡ナラシカ十カ倍ノ顯微
鏡ナシカ負三郎一等ノ用ニ近眼鏡ナラシカ老眼用ニ
老眼鏡ナラシカ吾々ノ大探ノ大属ナモノヨラズ然ラバ鏡
カ刃カ銃炮カ吾々ニ是具ハ吾々通教者ト申スモナリ
然ラバ是ヨリ吾々要用ナルカ一等ノ要用物ト云フ事
今度ハ金カ銀カアラサカ不口ク然ラバ陸軍カ海軍カ
大政府カ吾々ニ是中ニ是物ニ自由リ民権カ吾々
大探ニイカニカシキモノニアラズコトハ修身ノ教ヘナリ

(或ハ修身字ハ吾々通教者中ニ在リト云フ人モアラシ然シ
モ價ハ別ニ云フ事ト申シ知アリ度シ)
故ニ人世ハ面白キ一カ肝要面白キ一カヲ見定メルニ是
通教者カ肝要面白キ一カヲ見定メルニ修身ノ教ハ肝
要ナルヲ以テ負三郎ハ修身字ヲ以テ人カ最大方用
的ノ物トナシテ其ノ吾々通教者カ以テセント云フ
以上述ニテハ吾々面白キ一カヲ見定メルニ是物ト云フ限
リタルヲ以テ故ニ是物ハ何レモ應用スリシ應用ト例ト
ハ方デハ何レシテ早ヤ時計カ走リ止ルニ是
ト即思フ所ニ

修者

國治うや六身安からず故に身ヲ安んぜんト
欲せば直に知らう國ヲ治む可キナリ現今我
國勢ヲ察スルに杞憂カハ存せしド田季印ノ有
様ニシテ中々一日モ安坐ス可キアラハルナリ
以秋に際し國人皆美食ヲ服せば数年ノヲ
出せしや國家轉運獲し今島ヲ奉テ他國人ノ
配下ナルヤ明々瞭々たり善し其樂ハ一時樂
ニシテ永久ノ樂アラズ以テ樂ノ最上矣、是は
モト云フ可からず一時ノ樂ハ着目スルに方今ノ弊
習誠ニ甚歎不可キナリ諸君願フに一時ノ樂ヲ

願ふ永久ノ樂、着目シ現時流行ノ弊、凡
迷フ勿シ

再拜

明治十二年九月廿二日 中梨貞三郎謹言

明治十二年 九月一日 休

我輩ハ共進會ノ末席ヲ辱フタルヲ以テ今年一月分
四月迄四月間本會進歩ノレビニ「ヲ仕」トス抑々天下ノ
事物ハ相評シ相論スルニ由テ進ム玉ニ研カサレ石ニ寄シ今
ニ我輩ノ「レビニ」モ幾分ノ裨益ヲ本會ノ玉ニ與フコト得
ハズヤ也

本會モ創立以來己ニ三年、二年ハ初年ヨリ進ミ本年ハ
二年ヨリ進ミタルハ云フ迄モナレ 誠ニ今日ヨリ十年第一月
ヲ回顧セバ其差固ヨリ大ナル可シト云ニ本年一月公會
ノ序アリテ以來頗ル其体面ヲ変シ議論ノ着實、趣キ
タルハ實ニ新年ノ目出度ニ歳ノ改ミリタル位ノ事ニ非ス我
輩先ニ共進會第三期身會也ノ事ニ於テ此公會ハ本

會史上、特書ス可キ一大紀元ト記シタルガ今ヤ其言ノ
謬マラナリシヲ知リ欣舞ニ堪ズ時ニ議案ノ流行病ナク
ニ非ナリシト思免ニモ角ニモ駭ニテトシテ進歩ノ状マハ我
輩ガ真実ニ銘ニ保証スル所ナリ灰ニ同ケハ不忠ニシテ諸
會聯合ノ奉マハルヤ^{議ナリ}切ニ望ミテ諸君ハ益々精ヲ勵
本會ノ隆盛ヲ期シ玉ハニナリ

諸君ノ進歩如此シト思或ハ瑕瑾ナキニモ非サル可シ故ニ
我輩ハ此レビニ^シニ於テ直筆ヲ旨トスルヲ以テ時ニ諸君ハ
胸ガワリニ相成ラマラン我輩ハ具ハルヲ神ヤラサルノ各位ニ
求メスシテ^ニ管本會ニ志セントスルノ多ク^ニ斯ハ任ルナリ
我輩ガ爾ノ越俎ノ罪ヲ避ケテハ^シテ或ハ書池先生ノ^レ
後目ヲ^後視スルト為ス者マラント思決シテ然ラズ書池先生

生ハ^ハ後人ナリ^ハ後所ニ於テ正史ノ編纂者マハ可ナリ我輩
ノ^レビニ^レハ^ハ逆史ノ類ナリ私傳ノ体ナリ正史ト兩立ス可キ者
ナリ何ゾ^ハ後月ヲ^後視スルニマラニヤ先生^ハ予^ハニウヲ^後言セヨ
今ヤ我輩ハ本篇ニ入ラントスルニ當リ^レテ^レ別テ^レ五項トス
第一演説第二演説ノ方法第三演説ノ評第四討論第五
傍聴是^レナリ其ノ規則ノ改正書池ノ更迭ノ如キハ^レテ^レ出テ
冗長^ハ歩ルヲ^後欲セズ彼ノ社員諸君ノ心術ヲ云々スル如キハ我
輩決シテ取ラザル所ナリ

演説

本年一月中ハ演説^ハレ^レ二月以來諸君ノ演説合計三十五アリ其
ノ論題固ヨリ判然分チ難シト思今マ假リニ^レテ^レ大別シテ十
二部トス即チ法律政談、經濟教育、論説、化學、物理、星

孝、鑛山、衛生、純行、雜詔是ナリ外、官員エ方氏ノ論説
ニ篇マレ尺暫クシテ措ク

我輩ハ前以テ一言セサル可ラサルモヤリ、ソハ我輩ハ自巳ノ
専門ニモ暗キ漢字輩ナリ況シテ十三部ノ廣ク何ソ能ク
通評ヲ下スヲ得ン只我輩ノ意見ヲ述フルニ又ノ事ノ理
字ニ関シタルモノハ田中館愛橋君ノ厚意ニヨリ其高評ヲ
伺ヒ得テ記スル者多シ此後豫メ申上要クナリ

諸テ本評ニ立入りテ
法律ノ部ニハ藤田君ハ契約法ヲ談カレタリ抑モ契約ハ各
相互ノ關係ニ最モ不可欠モノニシテ小ハ行文シテ大ハ
各國ノ條約ニ至ルニテ契約ヲ論ハレ加之君ハ流行ノ佛朗良
法高律ノミニ依ラスシテ我邦ノ實際ニ徴セラレタルハ殊ノ痛切

ナリシカ氏事ノト入タルト君ノ非ノ捷キトニヨリ能ク割取リ得ヤ
リシハ遺憾ノ至ナリ然レモ其中契約ハ双方一致ノ上初メテ其
效ヲ有スト云ハレタルニハ我輩大ニ感スト所マリ先ニ横濱ナ
ル英國裁判官ハ日英條約書中ノ年々阿片トマリタルヲ、其吸
用ノ分ニテ華用阿片ハ約外ナリト注解セリ是等ハ謂ル一人
ヲ極メテ居ニ非ヤ筆ヲ措テ長歎

政談ノ部ニハ安崎君ハ元氣ノ用ヲ復キ國民ノ氣稔養育リサル
可ラスト痛論セラレタリ實ニヤ一國ノ人民ノ元氣ハ國ノ興亡ニ關セ
リ米利堅ノ独立モ希臘又百耳西ヲ破リタルモ皆テ元氣ノ脚
蔭ナリ尚武ノ精神ハ今ノ世界ニ缺ク可ラレバ君ノ小學教課
ニ古代勇士ノ記傳ヲ入レシテ獎勵セントノ論ハ誠ニ感服ナリ然
レモ君ノ此論ハ元氣ヲ養フノ論ナリ今日ノ時勢ヲ説カレシ

ニ非ス少シク採棄、涉レ凡論中國會ヤ憲法ト嘆言ワテ申
モシワマカヌヤニ承レリ如何様ニテ維持スルヲ出来ズテハツ、又
様々レ凡實際、於テ尤テ氣象ノ先セタルトイフ国民ハマル可ラス
氣象ホ吉ノ自由ハ共一タキヲナリ諸君北ノ演説ノ精神ヲ誤
解シシコトヲヤシ 山田郎ハ時事 管見トテ我邦今日ノ
実勢ヲ略叙シトクビール氏ノ説ヲ引テシテ我邦ノ策ヲ陳
シテリ 誠ニ題ニ背カヌ演説ナリ北演説ハ即チ我輩ガ為レ
タル者ナレバ我輩ニ於テ一点ノ攻撃ヲナキ筈ナレバ決シテ然ラズ
我論ハ矢ツ一通リ諾リ居ルト見ユレ余リ突然ト熱心ニ復キ
出シタルヨリ 聴者ハシテ極ニ粗末ノ書生論視セラレト志フル
ナリ尤モ北演説者ハ昨曠モ以演會ニ於テ國會設置期到シ
リトテ喋々シタル由ナレバ論ノマル気色ナレドモ彼ノ人民ハ無気力

ナリ疑ハハ府縣會ヲ是ヨ、政黨ノ宣言恐ル可シ信セサレバ偽
民權、徴セヨ、若シ起リバ華族ハ上院ニ據ルカ、撰擧人ハ誰々
ナルカ、權限ハドウ極ナルカ、臍ヲ噬ムコトハナキカ等ノ質問、若シ
シバ我輩モ亦タシテ書生論トセサルヲ得ズ何レ不意第ニ篇
ノ出ツルマラニ我輩ハ刮目シテシラユム 山田峰之進君ハ賞典
ノ容易ナラサルヲ演説マリ信實必罰ハ古今ノ格言濫賞弊
ハ忌ハシキ事ナレ凡是又不得止ノ事情アリテ明吏賢相モ如何ト
モスル能クナルコトアリ例ニ引ケタル保元平治ノ乱ノ原因ハ今世ノ
警戒トモ成リ歴史家ノ参考ニモ成リ適宜ノ立論ト云フ可シ濫
賞ノ所以ヲ四款ニ分チ右ニ譬ニヨリテ嫁曲ニ演ケタルハ感服今ソ
ノ詳細ハ忌シク凡實ニ角坊ヤ菓子ヲマゲルカヲテ使、出シ帰
リテ見テモ菓子ハナキカ或ハ約束ヨリ少キ時ハ不平ノマルモ尤

モナリ下女ノ甲斐々々敷働クヲ見ナカラ春秋ノ仕着セヲ見石
セテハ隣近所ニ鄙ノ評判立ツ可キナリ終〇〇ヲ以テ局ヲ結
バシタレバ我輩ハ固ヨリ〇〇ノ如何ヲ解スル能ハズ假令ニ解スル
モ亦タ口外スルヲ出来ヌナリ 井原君ハ「ヨリチ」ノ釋名トシ
「ヨリト」ヲ為ラシメリ近頃ハ書生ノ割意店ニ上ルモボートヲ
用スルノ慣習ト成リタレバ品多義ノ「ハ」最モ緊要ト云フ可
シ君ノ論ハ名高キ「ア」先生ノ説ヨリ出タルヤニ「ヨリ」ハ其正
大ノ後端ナルハ云フ迄モナケレバ君ノ釋名中「マ」ヨリチ「ハ」重
品
羊數ナル而已ナラズ説ノ多岐ニ涉ルハ羊數以下ニ「テ」モ「マ」ヨリ
チ「ト」成ルト云ハレシガ我輩品目「ア」ナリカニ「デ」ベートル「ナル」書ヲ見
シニ此書ハ「シ」ヲ區別シテ品羊數ヲバ「マ」ヨリチ「ト」シ音ノ
多數ヲバ「プ」ラリチ「ト」ナリ斯ク別チタレバ釋名ニ混雜無ク

ニカト思ハル儲テ「プ」ラリチ「シ」ニハ實ニ固却仕ハ五論ノ如ク五
十人ノ會員ニテ六人ノ説ニ落着スルカ如ク不満ノ至ラレバ此
ハシヲ救フノ法ヲ仰セラレタシ我輩モ説ナキニ非サレバ暫ク措
ク又「マ」ヨリチ「シ」ヨリチ「上」羊「下」羊トモ釋「マ」シガ愚拙ニハ此
ノ文字ハ英語ノ「フ」ホルスト「ハ」ーフ「ラ」スト「ハ」ーフト混スルカ如ク不得止
ニハ羊上「半」下「ニ」テハ如何シ
經濟ノ部ニハ井原君ノ徵祖法ニテ失フ英國ノ徵祖法ニテ
「マ」シタリ「エ」ン「サ」イ「ク」ロ「ビ」ヤ「ヤ」シ「ヨ」リ「ヨ」リ見出サレシカ中々行居ヤル
調ト思ハル併シ君モ仰セラレシ如ク數字澤山マリテ聖徳太
子ナラサル我輩ハ残念ナカラ聴取ハ「ヨ」出来ザリシ其中見付ケ
タルハ彼國ニテハ茶、煙草、生糸等其外貿易品ノ稅多キヲ
以テ益々彼ハ高ク以テ國ヲ立テ我ハ農ニ依ルノ別ヲ明シシ

ルリ本邦ニ移ラシタラハ其論無面白カラシ 岡山君ハ經濟
新論ト申スヲ本年皮切リノ論題トシ其目論見ハ六七
篇ヲ續ク哉ニ承リタルハ乍遺憾本期中ニハ結局ヲ見サレ
ヤモ計リ難シ儲テ今迄ニ三篇程演説アリ我輩ハ豫テ
君ヨリ直ニ此題ハ君ノ新發明ニ俾ルト承リシ故耳ヲホジ
クワテ伺ヒタルガ如何ニモ高尚ノ演説ト思ハル第一篇ニハ地ヨ
リ出ルノ物産ニ天産ト製産トノ別アリ製産ノ利ハ富カズ天
産ノ益、超ユバシク地ノ持主トシテ他人ノ手ニ渡スハ如何ニモ
馬鹿ゲタリト復キ第二篇ニハ道理上ヨリ此利ヲ人ニ渡サ
ズ即チ保護スルノ不正ナラザルヲ論シ第三篇ニハ保護税ト
自由貿易主義ハ而立ス可キ故ニシク用ユルハ時ト處ヲ察
スルニモ亦地方分財ト中央集財ト優ルノ理ヲ述ベラシ我輩ハ

經濟學、暗キ故譯ニハ解セシ凡何シモ尤ト云フ可ク殊ニ
ニ氏ノ石炭保護ヲ主張シテ自家ノ論旨ニ撞着スルヲ駁サレ
シハ誠ニ痛快ナリシ然レ氏第三篇ノ理論、如キハ未ダ茫然ト
ルガ如シ直ニシクテ取極ノ難シ加フルニ演説短カクシテ諸君
ニ判然セザリシカハ思ハル所ニ經濟ハ固ヨ富ニスノ術ナリ我輩
ハシク正理ニ訴ヘテ喋々スルニ宜シマラス又タ君ノ五論モ第二第
三ノ二篇ハストンセルトケレシノ御取次第一篇モ幾ラ詳ラナ
ルニモセヨ通例ノ經濟書ニマルト思ハルハ我輩ハ今迄ノ篇
ニテハ未ダ發明者ノ一トテシテ表ナラフ得ズ且ワ君ノ五趣意
又日本ノ財政ヲ論スルニマレバ今迄ハ先クヨーンスト云ハサル得
ズ他日エンドレノ至ル時ハ其五論ハ單程長キモ我輩厭ハサル
ナリ 市島君ハ貨幣本位ノ五演説アリ我輩ハ差支アリテ

大半聴キ得ヤリシハ遺憾アリ其上事柄ノ重大ナルニ時間ノ足
ラヤリシニ由リ筆、而ニ本位及コニホジワト、フタニダレド、得失ヲ
細シク承ハルヲ得ヤリシ諸君ハ例ニ引カレタルニ反、安政年間我邦
ヨリ夥々敷小判ヲ安賣ニ賣出シタルハ如何ニ又残念ノ至ヤリ
彼ト北トハ物産セシレ、當時洋銀賣ナル者アリテ大ニ本邦ノ
市場ニ影響ヲ為シ、困難ヲ受ケルヲ甚少ナラズ、君ノ卓識ヲ
以テ北ノ貨幣排除法ヲ講セラレシヲ我輩偏ニ羨望仕ル、原
川君ハ先ツ堂々ト今人ノ着実ヲ嫌フノ弊ヲ談テ前置ト致
サレ次ニ永々ト西洋ニテ「ニエー」ニヌマチワリストヤラ云フ考古ノ題ヲ
演セラル我輩初ノ北題ヲ聞テサテハ諸君ノ眉ヲ感ノラシメ
バ直イガト辨シタルニ中々堂々シテ面白ク云ヒ廻リテ嫌フ所カ
レ、咄ノ云ヒ功レヤリシヲ遺憾ニ思フナリ殊ニ人々口ヲ開ケバ西洋トイ

フノ今日面倒ヲ厭リス支那ノ歴史ヲ調ヘラシ馬遷ノ貨殖
傳ドコロカ士庶ノ貴賤ノミダ前ノ少昊金天氏迄溯ラレシニ驚
キタリ係シ番ヲ示サレシ錢面ノ文字ハ少レク解スルヲ得ヤリシ
又タ日本ノ歴史ハ時迫リテ西洋殊サレ様、見受シガ是ハ爰ニ
云フ可キフナネド我輩共別ニ出席致ス月一會ト申スハ本邦
考古ノ専門會ナレバ彼處ニ出下ヤラハ斯ル有益ナル演説
ニハ僅テ四十分ノ時間ヲ捧クルヲ惜ミサル可シ
教育ノ部ニハ市島君ハ下等社會教育論第一篇ヲ述ヘラル
其ノ農民ノ状態ヲ陳セラレシハ實ニ有ラユ經驗アリタル如ク、
農ヤ蠶婦ノ詩ノ尽ス可キニ非スト、且モ惜哉君ハ燈臺下暗
ノ評ヲ受ケヨリニモ知ラズ山間ノ小屋ニ居ル猪猿ノ友陸又固ヨ
リ無字アリト、玉都下ノ裏店ニ蚤虱ト仲間ヲ為スノ熊公公

毛藩方面ニワタ族ト云フ可シ田舎ニ學者ノナキハ云フ位ニナケレバ
我輩ハシヲ都下ト比較スル時ハ少田舎ノ方ハ貧富ノ不平均
少クシテ因循ナカラズ康福ヲ有スルヤニ思考致スリ又我邦ノ
田舎ハ西洋ニ比スレバ却テ上等ノ刻ニ居ルヤニ因テリ係シ夫ニ南
農モ高モ下等社會ナリ且ツ早晚我邦モ財政世態ノ変ヲ受
ク可ケレバ都鄙ニ論ナク北社會ヲ教育スル甚緊要ト云フ可
シ其方法ハ帝口ニ可カゾリテノ計リ能ク所ニ非ス君ニシテ按ッ
ハマル可ラザレバ尚モ實際ヲ觀察シテ談セラレタシ 大屋君ハ
學校建築法ニ篇ヲ述ヘラシ初メニ辭ケサル可ラサルノ言ニ次
ニ必ス辭シ可キノ言ヲ設ケレシ此篇ハ首トシテ小學校ニ當ラレ
タルヤニ復ユ空氣ノ流通生徒ノ便利ヨリ雪隠ノ隔ニテ及
ハレハ甚詳細ニ只管感服仕ルナリ

論説ノ部ニハ藤田君ハ成敗ヲ以テ人ヲ論ス可カラズト談ケレシ
由ナルガ我輩ハ不幸ニメシク因テ得カリン題ハ五取ト云フ
可キナレバ此後ヲ承ラユルニ上六評スルヲ得ズ 原川君ハ本會第
三年公會ニ就テ感アル旨ヲ述ヘラシ先ツ本會ノ北期ニ至リ
タルヲ祝シ次ニ委員ノ勞ヲ謝シ而後社員ニ後來ノ規模ヲ忠
告セラシメリ其言頗ル婉曲ニテ解スルニ因テト云フ之ヲ真ツ直ニ
云ヘバ社員ノ心ニチビギマリテヲ希望シ三四ノリノデニゾノ
ニバルニ躊躇着セラルハナカレトノ意ナラン抑黨派ト有力者ノ權
ヲ擅ニスルハ古今何地モ免ル能クサルノ弊ナレバ我輩ハ大ニ
ヲ嫌フノ素心ナリ況ニヤ本會ニハ北ノ弊ニ困ミタルノ先例モア
ル尚更其感切ナラサルヲ得ズ幸ニ今日ハ本會第二創業
ノ日トモ稱ス可ク如此ノ言ニ馬ハサルカ如クナレバ不幸ニメア一シ

有ルニ於テハ我輩ハカヲ極テ拒排セント欲ス保レ一方ニ向テ社
員諸君ノ平生ノ倦ミス走ラズ人ヲ精志セズ社員ノ多務ヲ空
クシ玉リサヲテ願ヒ芻蕘ノ言ヲ却ス中原君ノ卑劣論ハ
中々激烈ナリシモ其ノ譯ニヤ所々ヨリお尻カ廻リ市嶋君
ハ大ニ所見ヲ異ニスト云ハレ岡田君ハ君ニ言行一致遊バセト
警言戒サレ橋樑二郎君モ其ト言ハズニ一語ヲテ試ミラレ岡
田君ハ再ヒ壇ニ登リテ此論ハ終ニイニフ井ニテニ呈ラント止メテ
指サレタリ然レハ我輩ハ只君ノ演説ヲ尤トシ又テ其ノ尤
モナルカ故ニ君ノ此論ヲ喋々セラシム却テ卑劣ナリト云フナリ
何セト云フニ政談ノ弊ハ固ヨリ大ナリ弊マレバ之ヲ整キテ可
ナリ況シテ君ノ此論ハ甚ニ時弊ヲ矯ムルニマレハ尚更黑白
ヲ別チ靜ムト仰セラレ可キニ斯ク烈火ノ燃ルカ如ク齒切リ

シテ演セラレシハ我輩竊ニ怪マサルヲ得ズ尤モ君モ後トノ方ニ
テ多々後ノオマル人ハ多々後タル可シ大藏・オマル人ハ大藏卿ヲ
可シトサモ是々ト言放タレハ斯ニモ同輩ニマリ政談ヲ為ス
ハ強チ官途ヲ望ミテ多々後テテハ一世ヲ支配スルノ政事家ア
リ斯ク言ハハ我ハ官途ヲ論シタリ政談ヲ論ゼズト言ハシニガ
甚然ラサル後ハ論中ニミルヲ擔キ出シテ政事家ハ經濟上ニ
テ穀潰シナリ國家ヲ挽回セシト自任スルノ輩ハ固ヲ誤ル
ノ同賊ナリトマリレニテモ知レ可シ畢竟斯ク論題外ニ出テラ
レシハ物ヲ自己ノ目一方ヨリ見ルヨリ生シタリ青目鏡ニテ觀シ
バ万物皆青ナリ一體理學ノ御方ハ本年ハ大層熱心ニテ常ニ
他學ヲ排斥シ動モスレハ法文生徒ハ是レハ知ルニイ、法文學者
ニヤ是レハ出来ニイ、法文學ハ役ニ立タナイ、國家ノ是為ニ成ル者

カト言ハルニハ驚キ入リテ流マナイ者ハ知ラナイ訳、習ハナイ者
ハ出来ナイ訳、役立ツト立タエハ書ヒ様、アリ今ニキト是カ第
論シテ汝ハ執ル能ク、汝ハ行ク能ク、ト云リ、如何我輩ハ及シテ
為ルハ潔シトセズ、誠、同リ、昨日ノコナリモ、ルズ先生ガ余ハ教
字ニ通セズ、数字ハ金ト四ノ胸、入ルガ早イカ出テ世舞ヲト言ハ
レシ時ハ斯奴馬廉ナト、同クトル、ヲスセロソヒ、ヲ祝フ、ソトセラヒカ
物ノ口、イナシナレハ、ホ考アリ、度事ナリ、儲我輩ハ政談ヲ為ス
者ナリ、シヨ為シテ、天下ト誘ラサルナリ、シヨ為シテ、シニ耽ルヲ
欲セサルナリ、トシテ、自家ノ身分、関スル事勢ヲ、扱スルニ、何ノ妨
ケアラシ君又、是ク、臨テ、自ラ卑劣者ト云ヒ、タリ、卑劣ノ、コト、貴
重ナル時間ヲ、費サレシモ、全ク、只、管、契、心、感激ノ、致ス所、出テ
故、造、ニ、非、ストセバ、君、豈、善人、タ、ル、ヲ、得、カラ、ニヤ、同君、ハ、又、タ

演説論第一篇ヲ庄ヘラシ、此演説家ニ、此論マルハ、誠、敬服ノ
至リ、侍ル彼ノ演説ヲ以テ、快、ハ、力ノ、方便トシ、弱肉、強食、ノ、五
持論ヨリ、後出サレシガ如キハ、人ヲシテ、忽、驚、忽、称セ、レム、又、タ、辞
達、而、已、矣、ノ、註、解、ヲ、下、サ、レ、シ、モ、感、服、我、輩、ハ、此、ノ、語、ヲ、口、実、ト
シテ、精神、カ、各、各、盡、ス、レ、バ、ヨ、レ、辞、ヲ、講、ス、ル、ハ、書、画、ノ、末、枝、ニ、耽、ル
カ、如、シ、ト、云、フ、モ、昔、日、ト、カ、云、フ、論、者、ノ、言、ハ、鼓、ヲ、鳴、シ、テ、攻、ム、ト、ス、ル、ナ
リ、然、レ、モ、君、ハ、ド、ロ、ウ、モ、熱、心、ニ、過、キ、タ、多、辯、ハ、シ、テ、宰、相、ノ、職、ヲ、曉、カ
ス、ニ、是、ラ、ズ、ト、ノ、論、ハ、ル、ガ、モ、多、辯、ト、ハ、世、ニ、云、フ、ヲ、シ、ヤ、シ、リ、シ、ナ、ラ、シ、百、舌
喋々、轉、ワ、ル、カ、如、キ、人、物、ハ、大、宰、政、機、ヲ、執、ル、ニ、是、ラ、ヌ、ナ、リ、儲
テ、演、説、ヲ、文、章、ト、比、較、シ、テ、云、ヒ、サ、レ、シ、ガ、是、又、皮、想、ノ、處、多、シ、演
説、ハ、演、説、ノ、功、アリ、文、章、ハ、文、章、ノ、功、アリ、併、シ、比、較、シ、タ、ハ、演
説、ハ、人、心、ヲ、鼓、舞、シ、テ、一、時、シ、ヲ、起、ラ、シ、ム、可、キ、モ、文、章、ノ、範、圍、汎

ク意ノ後世ニ傳ハリ深ク人心ニ浸染スルニハ稍ヤ一歩ヲ讓ル可
シト思ハルナリ 田中君ノ男女同權論ヲ駁サレシニハ「三」モ「セ」
ニセハ「天」蹴足テ「地」ノ風情ナリ況シテ森、津、田、幸ノ小賣先生ハ
一言半句モ出デサル可シト思ヒタルニ岡山君ハシテ反駁セラレリ我
輩竊シテ何フニ同權ノ字ニイヤミガマルナラン柳權ノ字ヲ
ライト則チ通多ノ意ニ取ルバ女ジヤトテ男ヨリ通多ノ少キ理ハ
マル間敷ト思フコト岡山君尽サレタリ次ニ權ヲ「バ」ア「ー」イ「リ」ユ「エ」ズ
等実力ノ意ニ見レバ作ハ氣毒西洋「ド」ロ「カ」日本ニ女權ハ遠ニ男
權ニ優レリ儲又權ヲ「エ」シ「タ」ラ「ン」ト則チ性質智力等ノ多トス
レバ我輩ハ男女ニ差アリテ男ハ女ヨリモ勝ル可シト思フナリ **君ノ**
立論ハ男女異質論ニテ其論ニハ至極感服ナリ係レ「イ」ト「イ」
ス「ライ」ト「ニ」テ免前強ニ向フテハ弱ノ權利伸ビヌ者ナレバ我輩ハ

伏シテ望ムニ女子ノ質劣レルトテ之ヲ輕侮スルナク又一方ニハ却テ
細君ノお尻ニ引カレル如キ不都合ナキヲ望ムニ可ナリ **婚姻論**
ハ橋槐二郎君ノ立演説ナリコノ後ハ指一本差ス所ナレ我
心マリ他人ノ之ヲ忖度ト云フ可シ但シ第三段夫婦ノ數ニ至テハ
未ダ詳論セラレザリシハ遺憾ナリ 永田君ハ方今我國至難
ノ問題タル外國貿易ノ不平均ヲ歎セラレ此不平均ハ輸出ノ
比ニ少ニ其基ニスレバ之ヲ増殖スルヲ謀ルハ方今ノ急務ナリ儲テ
ソレニハ農ガ一番要用ニテシガ基礎タル地質學生物學ハ最
不可欠ニ皆人捨テ顧ミサルハ何ソヤト云ヒシ君ノ此後ハ地質學
ヲ擴張スルニテハ我輩ハ敢テ他ノ点ヲ問フ勉メテ賛成仕ル田
中君ノ評ハ少シク点ヲ失ハレタニ様ニ覺ユ夫ハヨケレド如此ク國ノ
利害ニ熱心セラレハ君ノ此願ヲ拜スルヲ能クサルコトモ可キニ

仰せられしハ歎息千萬ナリ

化学ノ部ニハ田中君ハ第一元素ノ説ヲ五演説マリソハ近頃
歐洲ニテ某氏ノ分析ニヨリ銅ノ元素ヲラアルヲ発見シ夫ヨ
リ試験ヤ観察ニテドウデモ六十四元素ハ研ケ研ケテ一元素ノ
素性ヲ顕ハスラントノ事ナリ我輩ハ事實ニハ疎ケレドモ今
學術進歩ノ方向ヲ伺ヒ奉レバ物ニハ一定ノ規則アリ天下ノ
事實ハ其ノ「カブセクチ」ト「カブセクチ」ヲ論セズ皆ナリ
雜ニ変遷シタリトカ申セバ前ノ方ニ登リ登ラテ本當ノ「
始ニ至ラズ必ラズ一箇ノ元素ヲ示スル」但シ北元素ハ「
リモ輕キ水素ナリヤ」後アリ尚ホ五研究ヲ請フ 決四君ハ「
トロ、ギルゲンク」ノ法ヲ事委シテ「ラレタリ」中々面白ヤリシガ
我輩ハお宗旨「常ニハトシニ「コメント」出来ズ暫ク眼ヲ他方

轉シテ見ルニ我輩ハ北法精巧ヲ極ムニ徒ヒ口氣相求メテ彼
ノ火事ヲ起ス怪猫ガ「嚙語ノ「バツタリ」ニお客ヲ掛ケテ「シ」
「イリテ止致シ終ニ巨額ノ金円ヲ「フレシ」ト「ララント入ラテ
「勞ヲ仕ルナリ」橋楠三郎君ハ五専門ナル化学ノ沿革ヲ叙セ
「ラルル「調甘ク届キタリ」頃ハ昔シ中古ノ時代マルケミス「ガ表レ
「多クモ世上公衆ヲ欺騙シタルノ其ノ時ヨリ精ヲ極メ密ヲ尽ス
「ノ今日迄ノ歴史築然トシテ目下ニ見ルガ如シ「サレバ彼ノ「マルケミ
「連ハ酒ヤ将自油ノ製法方ハ心得ネズ知ル居ル術ハ北石「ワテ何
「ニテモ出来ル、死ナ、イ様ニ不老ノ菓種ガ「ザル、飢「ヌ為ニ丹
「砂ヲ黄金ニ以替「ルト左モ法螺ヲ吹キタレバ西洋ニ限ラズ東ノ
「方漢ノ武帝モ種ハノ術ニ欺カレテ後ニハ五後悔シタル「若シ
「君ヲシテ二千年早ク生シテ「遊説セシカバ斯ル不幸ハ「間

敷ニ痛^ハシキヲナリ君ハ化学ヲ学フモ製造ニ应用セシメント云ハ
シタルガ左モアル可シ

物理ノ部ニハ田中君ハフコシクノ総論ヲ述ヘラル清夜仰テ天
ヲ望ムハ衆星燦爛トシテ霄漢ニ輝ク一白日俯シテ地ヲ察シハ森
羅万象大地ヲ圍繞ス聲ニ律アリ身ニ度アリ鳥ノ飛ノ車ノ
走ル水ノ下ニ流レ烟ノ高ク騰ルトシテ一定ノ法則アラサルハ此ノ
範圍ニ在リテ茫乎人生ヲ消過スル者ハ豈ニ人ノ人タル所以ヲ全ク
タル者ト云ハニヤ古來我國物マリテ物理ノ学ナレ遺傳世襲遂ニ
不学ノ人種ヲ殘シタル勝テ慨ス可キニヤ余ハ今マ断然路ヲ此
ノ学園ニ求メ同胞人民ノ迷夢ヲ擲起シテ東洋學術ノ英名ヲ
坤輿ニ綴^ニメントスト亦盛ニナリト云フ可シ此輩ハ本年物理學
ニ入ルノ諸君ヲ何ヒ奉ルニ比テ是レ才學兼備且フ文才活トニ有

ナルノ人々ナレバ東京大學物理学ノ晨星ト叫ハレ玉ハニテ期シ
深ク望ミヲ屬スルナリ論中百箇ハ一見ニ如カズ万巻ノ書ヲ讀ミ
タル人ヨリハ一快語ニモスト玉試撫ニ心掛ケ一事ヲ發見シ老者
ハ吾ハ之ヲ物理学者ト言フニストハ唐ノ孔子モ思ヒ出サレテ
莫^ハ不^レ北^ニ背^リ中^ニ東^ニ策^シダラケニ侍ルカシ

(右ニテ演説二十五件ノ評筆ナリ尚ホ余ヒル十件ノ評筆モ
他ノ四項ノ評論ハ後日記載シテ差出サントス)

共話會末席 山田一郎 稿

十一年十月三日皮演說大意

佛教

頁番 八

夫佛教之釋迦之本は是れ宗旨あり抑釋迦は天生摩訶國人にて周昭王廿二年
生れ(距今大凡り二千八百廿二年)

釋迦如来所説の教法は因らるる宗旨顯宗は云々緣大日如来の教法は因らるる
密宗は云々後分は八宗あり即ち三論、法相、華嚴、俱舍、戒律、天台、真言、
是より世に彈、降、上、下、加、十宗あり其外我國に布教せし宗旨は臨濟、曹洞、
黃檗、向、遊行、日蓮、ナリ

支那は此宗ノ入りしは後漢顯宗孝明皇帝永平八年(我垂仁天皇九年九十四年)
距今凡り千八百十有餘年)帝遣使之天竺求其道楚王英最先好之之
ハハ史ニ詳ナリ

我朝は人王三十一代欽明帝十三年(距今千三百廿五年)百濟王明釋迦佛金像
幡蓋等ヲ獻せし始り而我國に於ては指月、馬子、履戸皇子ノ奉崇ヲ始トス
是より漸り全國ニ行ハレテ盛ナリトス

嗚呼嗚呼 教ノ崇信者ヨリシテ 遂ニ今日 蒙僣ノ人臣ヲシテ 奉尊セシメ
人ヲ蒙古ノタマニ身ヲ委スル 故テ 憐ナレト云フ 加リニ 人臣ヲ 懲罰シ 人心ヲ 吐
スル 豈ニ 功ナリト云ハレバ 可キヤ 豈ニ 畏ルキニ 亦スヤ

考ルニ 儒者ノ如キハ 昔ヨリ之ヲ 信セラルリ 況ニ 今日 尼明ノ時代ニ 於テ
ヲヤ 然レバ 百姓 農臣ノ如キニ 至テハ 知ラレナリ 彼等 併教ニ 不 理ヲ 看破スル
ノカアラハレナリ 今ノ時代ニ 於テ 愚臣ナシト云ハレナリ 然レバ 無キヲ 能ハレナリ 然レバ 則
一定ノ 宗旨アリテ 等ヲ 誘導セラルバ 我 國 併 結ノ 有 様ヲ 現ニ 善 摩 振
ハレバ 如シ 而シテ 耶 獲 教ノ 災 延 蔓 延 日ニ 益 盛 下リ

我輩 考ルニ 耶 獲 教ノ 我 國ニ 蔓 延スル 畢竟 治 止ス 可ラレモ 一ヤリトス
何レハ 往古ヨリ 具有 様ヲ 現ニ 具 最 初 樟ヲ 蕪ナシ 何時ニ 始ルカ 知ラレド
慶長 年間 中ニ 始ルカ 慶長 十九年 (距今 二百三十四年餘) ノ 此ニ 高山
玄 祥 内 藩 如 安 等ノ 如キ 人物 往々 又アリ 伊 達 改 宗ノ 支 倉 三 右 衛 門ノ 如キアリ
(假令 其 實 意 西 情ヲ 探ルニ 有リトス) 寛永 十四年 島 原ノ 耶 獲 教 亂ヲ 休ス
明年 政府 詔シテ 耶 獲 教ノ 禁ヲ 海 内ニ 申シ 南 蕃 船ノ 入 港ヲ 禁ス 亦 知 人 異

アハ

國ニ 度ルヲ 禁ス 其 異 宗ヲ 防クニ 苦カク 以テ 見レバ

往時 封建ノ 時代ニ 於テ 防禦 甚 嚴 厥 之ヲ 禁ス 天ノ 之ヲ 防ク 能ハレナリ 況ニ 今
今日 万国 相通シ 船 舟ノ 雜 往ノ 時ニ 陸ニ 於テ 禁ス 難シ 附スルニ 於テ 是
如 斯 併ハ 益 衰ノ 耶ハ 益 蔓 延スル 其 終 莫ク 果シテ 何 如ク ヤ 未ク 知ラレ
ルニ 然レバ 則チ 耶 獲 教ヲ 以テ 我 宗 旨ヲ 定ニ 子 弟 臣 民 耶 獲 教ノ 流 布ハ 正ニ
始ニ 佛 教ノ 流 傳ハ 教 十 年ノ 前ヨリ 故ニ 教 十 年 前ノ 機 智アリ 亦 未ク
耶 獲 教 奉 信ノ 徒ハ 佛 教 奉 信ノ 徒ノ 數 百 分ニ 過ラ 故ニ 謂フニ 今日 佛 教ヲ
后ニ 之ヲ 改 良シ テ 時 代ニ 應ジシ テ 未ク 甚ク 疑シ 不 依テ 切ニ 白キ 蓋 之ヲ 盟ニ
ニ 耶 獲 教ヲ 防キ 佛 教ヲ 以テ 我 邦ノ 宗 教ト 示 ン

演説大意

真お 友ハ

日月ニ関守ナケレバ先陰ハ猶ホ天ノ如ク其去ラテ歸ラサレバ東流ノ水ノ
 如ク諸君ト休暇ヲ得テ新禧ヲ祝ヒレバ昨日ノ事ノ如クナルニ二月
 ノ歳葉モ既ニ済ニ今日ハ己ニ二月十八日ナリ而シテ余今メハ前モ親
 睦ナル會員諸君ト此ニ會スルヲ得余ノ幸ナリ且ツ今夕ハ演説ノ
 番ニ當リタレバ人民ノ氣ヲ以テテ孰テ抑込ルラシメ諸君暫時之ヲ
 忍ビ

夫レニ國ハ國ノ性ガ風俗アリ此レ各國ソノ國体ヲ異ニスル所ナ
 ナリ也テ人民ノ氣象モ亦異ナリ日本ニ支那ト其氣象相異
 ナル又英佛人ノ其氣象ヲ辨スニ等人ノ能ク知ハルニ余ノ喋リテ
 僕ナルナリヤニテ其氣象相異ナル厚由ヲ察スニ蓋シテニシテ
 是ラユル各國ノ氣候或ハ性古ヨリノ遠習等ニ依テ自ラ

一揮ノ氣衆ヲ生ムルハ抑々人民ノ氣衆ハ國ノ盛衰
存亡ニ關スル大ナリト云ベシ苟モ一國ヲシテ富強ナラシムルニ
人民ノ忍耐氣衆ノ氣衆ナラカニ可ラス人民ハ氣衆ニ富ム
ルニ何ニ十國トモ大國ニ對シテ何リ深ク畏ルニ足ラザルヤ何
ヲ以テ之ヲ知ルリヤニ徴シテ知ルレバ視ヨ希峰ハ萬キルカ國
ヤリ而シテ古ハ學術技藝ヲ以テ一也ニ辨現シ又此小民ニシテ
能ク居ル^{能ク}大軍ヲ敗リテ國ヲ奪フニ又近クハ此ノ歴劫ニ
北戎^{北戎}そのキ忍耐氣衆ノ氣カナクハ此ノ氣ヲカクカクイラン
ヤ其代汝奉ニ違フ^{違フ}ラウニ速ク我國ハ此幾ヲ奪フニ近キハ
我國有ノ常敵ノ氣衆ハ漸ク將ニ衰シトス嗚スヤカリヤ
國寧^{國寧}ハ國辱アルモ苦シ人民ノ氣衆ニシテ輕佻浮薄早
屈不^{屈不}忍ナルハ何ノ役ニカラン寧ロナキニ若クハナリ

マ

何トナレハ行事ニ放テ舞エ可クモ^{可ク}モ^モ諸君ハ
近キ^{近キ}佛國ノ史ヲ讀テ僅クもキ^キノ^ノ刺^刺國^國寧^寧ノ
何^何變^變セシカ^カ知^知ラ^ラハ^ハ此^此ナ^ナリ^リ後^後ス^スハ^ハナ^ナリ^リ也^也ラ^ラハ^ハ今^今ナ^ナリ^リ
我國人民ノ氣衆ヲ回復スルニ草草ノ^{草草}ナ^ナラ^ラス^スヤ^ヤ抑
是^是ヲ^ヲ進^進ム^ムニ^ニナ^ナリ^リ

人民ノ只行ハ邦國盛衰ノ基

大凡ソ事物ハ何ニ限ラヌ必ラス先ツ其根柢アリ而シテ他ノ
部分ハ之ニ隨テ生シ又ニ附屬スルカ如シ喻ハ一家ニ大星ヲアリ
而シテ衆星等之ニ屬シ又壁アリ窓アリ戸アリ其体裁ヲ飾整
スルカ如シ故ニ邦國ノ盛衰ニ又亦必ラス其原基アラサル（アラサルナリ
是レ何ナラズモ子抑邦土ノ廣大ナルモ子人ロ多キモ子城堡
ノ固キモ子人家ノ美ナルモ子我輩ナ思萬方ニテ後否敢
テ斷ルモ子非ラス其原基ハ唯人民ノ只行ニ外ナラサルヲ知レリ
故ニ邦國人民ノ只行壞類ニテ其國ノ覆滅シ或ハサクト又衰微
セサルモ子古ヨリ未ク是マニナルナリ
視ズヤ彼四羅馬帝國ノ如キハ一時其富強ハ吾界ニ侘者スルノ勢ナ
リシモ一々モ人民ノ只行汚穢ニ歸シ自知ノ心猶失ヒシヨリ一
蕪國ニ覆滅セラレシニ非ラヌヤ希臘ノ如キ小邦ト雖ク繁榮
富強ヲ以テ一世ニ雄視ヒシハ何等ノ原因ニヨルヤ曰ク人民ノ只行

端正ニシテ自勉ノ心辱キニ感^トコレ依ラザルニキキナリ
彼邦^イラシト^ク視テ其國^ノ一^部政^治中^ノ堂^シタル國^ヤリシニテ
百七十三年^ヲ百七十二年^ヲ七百九十二年^ノ轉^ルニ處^テ邦^ノ大^ニ天^ク
ク魯^ノ澳^ノ割^リノ三國^ニ分裂^サレ^テヤ^ハ西^ノ復^蘇シ^ルル^ニ由^リテ^ハ邦^ノ大^ニ天^ク
言^フル^ニハ^ハ言^フル^ニ報^答ヲ^被ル^ニ至^ルニ^モ抑^何ソ^ヤ身^ノ時^勢ハ^然ラ^ズ
シ^ル所^トハ^言フ^ル抑^又人^民ノ^只行^廢類^ニ至^ルニ^モ不^拔志^氣ノ
宿^夫セ^シ依^ルニ^非ラ^ズ抑^又人^民ノ^只行^廢類^ニ至^ルニ^モ不^拔志^氣ノ
アラ^シマ^ハ炭^ノ魯^ノ國^ヲ救^フリ^ト能^ハク^帝ノ^力ヲ^用フ^ルヲ^知リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
國^政ニ^テ改^メシ^テ其^甚ニ^至ラ^ズハ^其王^位ノ^察ヲ^主ラ^ズシ^ルル^ルノ^由キ
アラ^シマ^ハ何^ニ魯^ノ人^ノ強^迫ス^ルニ^由リ^テ其^國ノ^{分裂}ヲ^可免^スル^ルノ^由キ
狂^者アラ^シヤ^ハ嗚^呼如^斯内^訖外^連一^時ニ^至リ^人心^ハ洶^々定^ラズ^ニ國^政
ハ^察シ^テ絲^ノ如^キル^時ニ^當テ^ハ其^力ヲ^用フ^ルニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
愛^國士^{アリ}テ^ハ祀^百愛^邦ヲ^能ス^ル國^ノヲ^タメ^ニ粉^骨碎^身ノ^勞ヲ^及ブ^ル
ニ^又昊天^ニ誰^泣ズ^ルニ^由リ^テ其^甚ニ^至ラ^ズハ^其王^位ノ^察ヲ^主ラ^ズシ^ルル^ルノ^由キ

氣力ナキ時ニテハ^ハ其^力ヲ^用フ^ルニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
違^フル^ニ依^テ觀^望人^民ノ^只行^端止^スル^ニ由^リテ^ハ國^政ヲ^救フ^ルニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
行^端止^スル^ニ依^テ觀^望人^民ノ^只行^端止^スル^ニ由^リテ^ハ國^政ヲ^救フ^ルニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
我^輩豈^リ現^今我^國ノ^人民^ノ伏^死ヲ^現ニ^具只^行日^ニ浮^薄ニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
リ^言フ^ルニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
止^レニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
ラ^今夕^ノ陽^ヲ照^スル^ルノ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ
真^實ニ^由リ^テ其^智アリ^ト申^シテ^ハ

十一ノキ

我國洋字ノ起原

我國ニテ洋字ノ初ヲ格胎セシメ蓋シ長崎ノ地ニリ故ニ先リ長崎
 港ノ遺基及ヒ其地往時ノ景況ノ畧述ヨリ始ニト欲セシヤリ
 抑長崎港ニ元ノ名ハ深江浦トイヒテ昔年致家ノ進湊等自ラ半業ヲ
 營ムノハニニテ也ニ知ル又ニ錦トヤリシトリ故ニ古代ノ事莫ク明ニ知可ラズ
 ト云然レハ日記古老ノ傳語等ヲ考メ合ニルニ古昔長崎ヲ太郎ノ所據
 ニ即チ錦太郎時洋四郎浦上小太夫等ノ武士兵亂ヲ避ケテ此處落
 シ御民ヲ策ケ自ラ其鎮主ノ如ク成リ來リ長崎遂ニ此地ノ名トヤリシト
 云小太郎十二代ノ孫甚右衛門ト名大村民部久輔純忠ノカラ要ハ然レニ
 天文年中甚右衛門將軍義輝公ノ命ニ背リテアリテ筑後ニ流落シ
 長崎ノ地ヲ大村家ニ給ハシト云又嘉陽畧記ニ云昔北条高時滅ル時
 長崎對鮮門ノ島屋鎌倉ヲ落テ名ヲ小太郎自直ト改メ多所ノ穴墜ス
 斷リ五代ニ至リ長崎賴純自述ニ此地ヲ押領ス古ハ大村家ナリ云
 ト其信約ヲ案ニス

元龜元年長崎港ニ南亞船始テ着岸シ高臺ノタノニ向後長崎

ヲ渡リノ津ニ定メテ請フ翌年大村ヨリ海岸ニ敷町ヲ建ツ而シテ
是年諸方ヨリ来リ集リテ住居ス者多ク元和初ニ至テ己巳四
十町ヲメリト云天正十五年亦吉島津征伐ノタメ筑前ニ遣留中
長崎ニ即敷テ信之ヲ使アリト聞キ嚴禁ノ令ヲ奏セリト云
其後後ヨリ阿蘭陀ニ御免アリテ平戸ノ船ヲ寄ス異船禁止ノ後モ
固ニ取アリテ引續キ渡来ヲ許スレリ寛永十八年平戸ヨリ長崎
ニ移ル

又保元年以後長崎ニ奉行所ヲ置キ奉行ヲシテ事ヲ管セシム正保
四年南蛮船ヲ將九州ノ諸大名長崎表ニ登向セシヨリ以來西諸侯
或ハ年中常勤或ハ何ケ月間リノ勤ルヲシテ寛永十年
同港路四崎日輪山ニ遠見番所ヲ建テ番人数十人ヲオキ絶カ
洋中ヲ望シノ若シ異船ト認ル時ハ直ニ奉行所ニ告ニ其地港口ノ要
宮ノ地ニ召テ番所ヲ置キ若シ禁テリト云其以ツ實ニ異船ノ一艘
来ルハレハ圍困シテ民衆ヲ安シセラルニ至ルヲアリ今ニシテ之ヲ
追想スル可ク天シキ程ノヲモクシトスル也此長ニ直ニ畏レタルニ依リテ

野字

野字ノ開ラレモ亦其初チ動レハ實ニ微シムモノナレハ後ノ世ニ傳
ルハヤリ而シテ野字ハ嚴禁ニシテ唯長崎通詞ノニ限リ卿ヤヤ
字ヲテテ許シタリハ其ニ述ビテ南蛮人ノ渡来ハ長崎ニ限レハ其
比ニ乘リ来リレテ者ノ傳来ヲ受ケテ外科ノ流レハ也ニ残レリ之ヲ南
蛮流ト稱セリ又寛永十八年後南蛮ヨリ其術ヲ傳レシ者アリ之ヲ阿
蘭陀流外科ト稱セリト云西片ノ一ニ裁テハ禁止アリト云渡海ノ許
得ルハ南ニテモ裁シ書キテハ母モウレタリト云通詞ノ輩モ行儀カ
書キ留メテニテ口ワラテ敷懐ニテ通弁ヲヤロリト云
吉宗公ノ時南蛮通詞西善三郎吉雄幸左衛門等申合テ唯暗記ノ
ニテハ入組ニタラシメテ其ノ難クニ付何卒我レニ限リ横字
ヲ習語スルヲ御免アリト云然レ時ハ万事ニ付ケ事情明白ニ付御
用兼宜レベシ今近ニ改メテ何分漢字ニ欺ルハアモ之ヲ氣明スル
弁ナシト制ニ變テ之ヲ許スル是則横字ヲ字デノ始ナリト云
吉宗公御医師島島云夫老御儒者青木文藏ノ西人ニ命ニテ

字つしん是助ナシカニテ向蘭皮字ヲ字ニ知レ温帯ナリトソ、而シテ
明和ノ比ヨリ蘭書ヲ所持スルノ御免ト云ハレトモ向シテ所持
持タル者ハ風俗ニヤリテナリトソ

此比ニ洋書ヲ字ニ人ハ雖ハ多シテ然レテ其申ニ執テ我國洋字
ノ基礎ニ建ルニ最モ興リテカアルモノハ杉田玄白、中ノ序庵、平賀

深内、前野蘭化子ナリ
玄白等蘭ノ医書ヲ見テ其國ノ醫術イハレシ勢キ、會スル時ハ別テ語
ヲ曰ク、何南皮術術究理ノトドモハ実ニ驚キ入りシ者ナリ、之ヲ早書

譯解レシヤ、ハ國ヲ利スルハ大テラ、解レシヤ、ハ口惜ケレト、後玄
白子守千住骨ヲ厚ニ訳テ、解テリ、アリ、同キ是ハ好抄ナリ

ト所持セル南書ヲ推リ、テ曰ク、至リテ骨部ヲ一々、蘭國ニ照ラシ合ヒテ見
ニシ、憂又、南國ニ送フコトシテ、古來、医經ニトキタルハ大ニ若マルコトヲ
奈見レリ、又、且上、而、瑞ニ野ヲラシテ、骨ヲ拾ヒ、リテ、視ルニ、四、説、ハ、
余、リ、遠、シ、南、越、ニ、符、合、ス、ル、ニ、對、シ、驚、キ、レ、リ、ト、ソ、
相、談、テ、曰、ク、我、輩、身、体、ノ、直、ハ、形、ヲ、知、ラ、ズ、今、返、ル、ニ、昔、ヤ、レ、シ、一、面、月、

何トリニテ之ヲ昔ハ、医ヲナリ、天也、何ニ身ヲ立ルノ中譯モ、アルゾ
ト此ニ、虎ヲ各一段ニテ、此、南、書、ヲ、習、熟、ス、ル、ヲ、第、一、ノ、節、メ、リ、然、レ、ニ、句、ワ、ラ、ヌ、一
日ニ、ハ、ア、キ、ラ、メ、ラ、ズ、日、暮、ハ、マ、テ、考、ヘ、熟、ク、シ、テ、合、テ、僅、ニ、一、ニ、オ、ノ、為、章、一
三行ニ、解、シ、得、テ、リ、レ、ト、云、然、レ、ハ、一、月、ニ、シ、テ、七、度、ニ、會、シ、テ、苦、如、所、ス、一、凡
リ、一、年、有、餘、ニ、過、タ、リ、譯、熟、ニ、新、ク、増、シ、説、ハ、一、比、ハ、自、然、ト、解、ス、ヤ、ウ、ニ
ナ、レ、リ、ト、ゾ

玄白ハ一日會ニテ、解、ス、ル、也、其、夜、翻、譯、シ、テ、早、抄、ヲ、立、其、譯、述、ノ、任、方、ナ
キ、考、ハ、直、レ、シ、一、四、年、ノ、間、ニ、十、一、度、コ、テ、熟、メ、リ、テ、板、下、ニ、渡、ス、(キ、マ、ウ、ニ、テ、リ、送
ニ、解、体、新、書、翻、譯、ノ、業、ヲ、成、熟、セ、リ、コ、レ、マ、テ、二、百、年、來、外、科、は、傳、レ、レ、ト、
但、医、書、ヲ、譯、ス、ル、ヲ、一、ト、蓋、シ、是、レ、ソ、ノ、初、メ、ナ、ル、(シ、ト、云、

東、奥、ノ、大、槻、ニ、澤、ヤ、ル、者、玄、白、子、守、ノ、門、入、リ、テ、其、業、ヲ、講、究、セ、リ、後、長
崎、ニ、遊、ル、ク、蘭、字、楷、抄、ト、云、書、キ、者、也、リ、後、世、ノ、志、マ、ル、者、之、ヲ、見、テ、走、テ、
興、レ、シ、者、ニ、サ、カ、ラ、ズ、ト、云、玄、白、澤、ノ、僕、命、ヲ、以、テ、仙、臺、漂、居、ニ、魯、國、ノ、風
俗、尋、テ、向、シ、環、海、墨、爾、ナ、ル、書、ヲ、考、ル、又、是、舟、車、洋、ノ、横、行、ス、ル、ヲ
知、リ、テ、押、影、向、ス、テ、著、シ、シ、錄、ノ、具、所、害、ヲ、述、ブ、字、新、ノ、傳、説、ヲ、述、ス、

青本良陽吉宗ノ内方ヲ受テ其學ヲ講ジ蘇昂ニ南代、杉田鷗堂
桂リ月池、宇田リ揆園等ノ書見セシテ医術ノ一部ニシテ其學ノ統
ヲ垂ル、名ニ實ニ大撈船水ニテ扇化説ヲ擧メテ南學ヲ掃蕩シ
其學ノ句語變ノ法ヲ述ベ擧メトリゴリ南學ノバキヲ世人ニ示セリ
新刊白石朱實ニ異言ヲ著リシ文化十三大撈五幹ニ南學ニ法ヲ講ジ
南學化ヲ著リシ詞只論地ヲ述ベヨリ文法書ノ始ナリト云實以八年稻村
某ハ其ノ對譯辭書ヲ著セリ宇田リ揆園舎味南宗ヲ著リシテ化學
ヲ説キリニアメノ相用ニ依リテ植物學等ヲ著セリト云譯學ノ我國ニ
入りシヨリ其野ニ空リテ漸ク繁ニ社キニ知レト信スルナリ
以上述ル所ハ譯學起原ノ概大畧ナリ(一)ト云知ルル事ス

十二年 五月 庚辰

真崎 孝八 居休

明治二十二年
三月廿四日

演說

巖聲

真崎 孝八

人智ノ發達ヲ妨害スルハ惑迷心ニ若クハナレシヨリ除去スルニ人考究
ノ志氣アルヲ要ス夫明ノ世ニ在テハ人考究ノ志氣ナク即チ事物ノ理ヲ
究ルコトヲナサズ故ニ其惑迷心ヤ疑結シテ遂ニ解ズス道ヲ人智發
達ニス同明進ム能ハズ斯クノ如キハ豈ニ嘆スベキ非ラズヤ
余勿持村翁ニ同ク曰リ農夫果等ハ何処ノ凶神ノ樹ヲ伐除セシニ
忽チ神罰ヲ蒙リ熱病ニ罹リテ死シ敢テ彼等ノ樹木ニ觸ルハ
病ヲ登シ性ニ死スル者アリ此ノ如キ類ハ異代ノ同ノ物ニ依リテ
此者ヲ救奉ニ違フラシ僕今夕ノ演舌ハ幾分カ斯ニ進テ解ク
ニシテト察シ書テ書中ニ載見スル所ヲ記寫シ置キシ者ニ俾ル今サク

セラシト欲ス請フ暫時之ヲ是レ

嵐瘴トハ時トシテ空氣中ニ存在スル一種ノ汚穢ノ毒氣ニシテ人ノ之ヲ呼吸スル時ハ大ニ身ニ病害ヲ与ヘ孰中疫癘熱病等ノ媒介ヲナス者ナリ其眞實ニ至ラハ昔ヨリ有名ナル分析化学者等ノ久ク研究セシ所ナリト雖ホタニ判然トラズト云然レモ重モ濕沼ノ地ヨリ發生スル者ニシテ地上ヨリ發出スル處ノ先ニ能ハシム毒氣等ノ動物ノ腐敗ヨリ發出スル所ノ含毒毛野ヨリ成立リテ疑フ可ラズ

又ヨリ生スルハ幾分カノ濕氣ト熱氣トヲ要ス故ニ土地全ク乾燥ニシテ氣候非常ニ寒冷トシ特ハ曠生ニ能ハシナリト、其毒害ヲ人ニ及スル勢力ハ土地ノ氣候、湿润、雪中ノ電氣、等ノ摸探ニ依テ異ナリ又人ノ之ヲ呼吸スル多サタニ異人ノ性元來之ニ感スルノ難易ニ依テ異ナリトス、其毒易ナルハ寒國ニシテ瘧病熱病等ヲ發起シ瘧熱

ノ國ニ在ラハ黃熱疫癘或ハ布列痘ヲ發起シ、ソノ甚々激烈ナルニ至ラハ僅一數時ノ間ニ幾千ノ生靈ヲ斃スニ至ル、之ヲ呼吸スル僅ニ二度ニ過キスニテ害毒ヲ蒙ルコトアリ伊ノ國ニシテハ農夫カ畦地ニ臥伏シ或ハ溝渠ヲ窺視スル實ニ僅サノ間ニモ病害ヲ蒙リ斃ルコトアリ

人初メハ或ハ其勢力ノ甚々激烈ナルニ覺シテ抑、下性ノ人ハ常例一分時間ニテ呼吸スルニ度而シテ一度ノ呼吸毎ニ空氣ヲ肺中ニ誘入スルニ仕方アリテ即チ二十四時間ニハ空氣ノ五十七万六千立方アリスル肺中ニ入ル、エナリ、而シテ此空氣ハ一呼吸毎ニ氣管及ヒ肺ノ表面ニ十平方アリスルニ至リ、之ニ藥毒ニ入リナリ亦大ナリトス、又此毒氣ハ汚穢ノ毒氣ヲ有シ、此空氣ガ我ノ血脈ヲ汚シ、体部ニ散布スル所ノ心經ヲ害シ、身体ヲ病害スル

其の甚く驚愕すキニ可うテ知れどし

此處瘴火重烟に依り腐滅をモリ如しアリニ止ヤ人曰クア
セニヤ人、疫病ヲ罹たニ速者ノ居倒、火ヲ燒り、テ以テセリ
而テ近也ニおシキ、沼ノ中央言ん、火ノ郵便ノ役人、年中
日夜向新ナリ、身也、火ヲ燒り、テ健康ヲ維持ス、
タリ又嘗テウチヤナシ、此ノ大、疫病ノ流行ヒシ、アリ、其比起
リ、大火ニ、尽リ、腐滅ヒシ、アリ

瘴瘴ノ比較重量、空氣ヨリ重シ、ス、千八百廿年、
極精密ニ空氣ノ分量ヲ試シ、其、經驗中、怪、
氣ノ分量著ク重シ、此、
針、
ノ説明シ、
丸屋

交合セシ、
報、
中、
氣、
其、
最、
部、
於、
の、
依、
即、
四、

交合セシ、依リテ、
報、
中、
氣、
其、
最、
部、
於、
の、
依、
即、
四、

ハヤク至るフートの向ニナセメ而シテ三百五フートの方ニテハ
學ニナメナリシト

つマシ風ニ極ニテ一処ヨリ他処ニ運回シテ故ニ其進行ハ山

將ニ速ラシムルアリ故ニ概ニ此ノ高仰キ以テ許シ可ラト

羅馬カニテシテハ農夫拵ガ甚ク樹ヲ伐リ拂フ外ハ熱病ヲ養ヒ

其草木ノ向ニ伐取ヒシテノ瘡瘡ガ木ヲ伐リ存クニ皮ヲ放テ

シ先ヤルベシ

此毒氣存存スルノ地ニテハ朝霧ノ消失シテヨリ晩霧ノ發出スガテノ

向ニ州ニ在ル其害ヲ安ヘテマシト云

